事　業　評　価　シ　ー　ト

担当課・室長：環境教育推進室長

事　業　名	国際協力
上位施策名	環境教育・環境学習の推進
1　事業の概要	持続可能な社会を構築するためには、各主体が行動に環境配慮を織り込んでいくことが不可欠であり、環境教育・環境学習を推進することが重要。 本事業は、諸外国の環境教育・環境学習に関する先進的取組事例を学んだり、我が国の経験を他国と共有し、その取組を支援することなどを通じて、国際的な交流・協力を推進するものである。
2　進捗状況	○　平成 11 年度より、アジア太平洋地域諸国において、我が国のこどもエコクラブと同様の環境保全活動に取り組んでいる子どもたちを招聘し、開催地となる地方公共団体等との連携・協力の下、「こどもエコクラブアジア太平洋会議」を開催。平成 11 ～ 13 年度国内参加者の累計約 1,900 人 。また、アジア太平洋地域の子どもたちの取組事例を集めた環境活動情報誌「ワッショイ！ワッショイ！」を作成し、国内外に配布。 ○　「第２回日中韓三カ国環境大臣会合」において「環境共同体意識の向上」等について三カ国共同環境協力プロジェクトを形成・推進していくこととなったことを受け、三カ国で環境教育ネットワークを構築することで合意。平成１２年度に我が国において日中韓環境教育ワークショップ及びシンポジウムを開催。ワークショップの合意を受け、ワークショップ参加者が中心となって三カ国の環境教育関連団体の共通データベース作成を推進。シンポジウムには約 300 名が参加。 ○　平成 9 年度から 12 年度にかけて、開発途上国での普及を念頭に置いた視聴覚教材等を作成し、インドネシア等 3 か国への配布及び途上国の小学校等でモデル事業を実施。
3　評価	「こどもエコクラブアジア太平洋会議」の開催により、我が国を含めたアジア太平洋地域諸国で環境保全活動を行っている子どもたちの交流の場の創出と連携の促進、地球環境に対する想いの大人たちへのアピール、会議開催地を中心とする地域における環境教育・環境学習の推進については、他の国際会議の場において本会議のアピール文を発表し注目されるなど一定の成果は上がっており、所期の目標は達成されたと言える。 海外招聘者の人数には限りがあることから、今後は、会議開催や環境活動情報誌作成を通じて培われた国内外のネットワーク、収集された情報等を生かした、より効果的な事業の在り方を検討していくことが必要。その際には、アジア太平洋地域のみならず、世界各国との連携を推進することも視野に入れながら、インターネットを活用して情報共有とネットワークの強化を図る。 また、日中韓三カ国の環境教育・環境学習に携わるＮＧＯや専門家の連携は、北東アジアにおける環境教育・環境学習に関する国際協力の核となるものと考えられ、経験・知見の交流や連携をさらに推進する。 さらに、開発途上国における映像による環境教育については、開発途上国の教育者に環境教育に映像という手法が効率的・効果的であることを示した他、環境教育の重要性について認識が低い教育者に対し、モデル事業を通じて環境教育の必要性・効果について理解を得ることができた。
4　予算事項名	・アジア太平洋エコクラブ推進事業費 ・こども環境活動情報国際ネットワーク事業 ・日中韓環境協力推進費
5　対応副施策等	